

令和3年度

南河内二次医療圏 「地域医療構想」の進捗状況

大阪アプローチ

圏域ごとのデータに基づく分析をもとに
公民のイコルフットイングで
病床機能分化の議論を進める

Contents

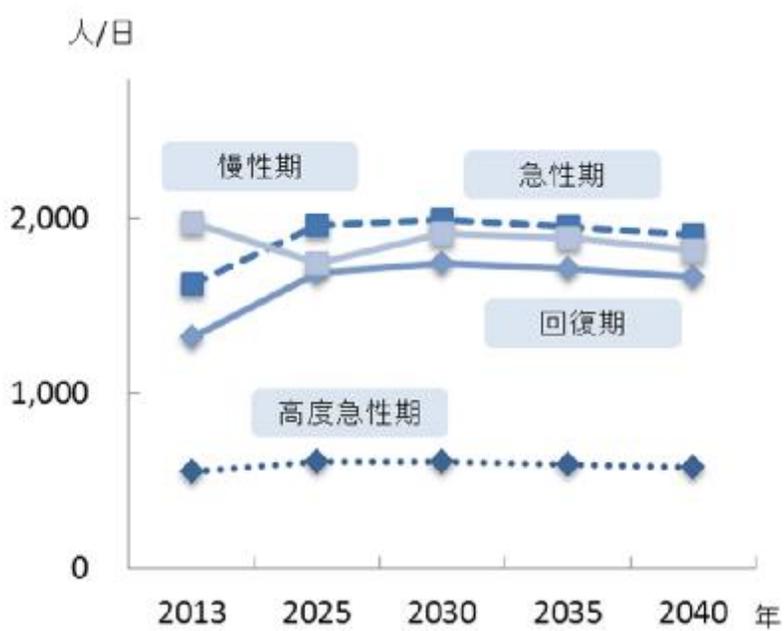
- 1 南河内二次医療圏の概要**
 - (1) 今後の医療需要の見込み
 - (2) 医療体制の概要
 - (3) 病床機能分化の状況

- 2 将来のあるべき医療体制に向けて**
 - (1) 2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能
 - (2) 2025年に各病院が検討している病床機能のまとめ

1 南河内二次医療圏の概要 (1) 今後の医療需要の見込み

南河内二次医療圏の2017年時点の既存病床数は、
2030年の基準病床数推計値と比べて1,000床以上多い

● 病床機能ごとの医療需要の見込み(総計)



● 基準病床数の見込み



基準病床数推計値では、2030年においても、
既存病床数に達しない見込み。

	2013年	2025年		2030年		2035年		2040年	
	(人/日)	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年
高度急性期	556	611	1.10	608	1.09	594	1.07	580	1.04
急性期	1,629	1,962	1.20	1,997	1.23	1,957	1.20	1,909	1.17
回復期	1,321	1,688	1.28	1,745	1.32	1,715	1.30	1,669	1.26
慢性期	1,981	1,750	0.88	1,915	0.97	1,894	0.96	1,816	0.92
合計	5,487	6,011	1.10	6,265	1.14	6,160	1.12	5,974	1.09

参照：第7次大阪府医療計画
一部改編

1 南河内二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要①

南河内二次医療圏では、新公立病院改革プラン補足調査対象病院が2病院、公的医療機関等2025プラン対象病院が3病院である

● 主な医療施設の状況

所在地	病院名	新公立病院改革プラン にかかると補足調査対象	対象病院 公的医療機関等 2025プラン	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人 開設病院	公的医療機関等	府立病院 機構	在宅療養 後方支援病院	がん診療 拠点病院	三次救急 医療機関	災害拠点 病院	特定診療 災害医療センター	周産期 母子医療センター	感染症 指定医療機関	結核病床 を有する 病院	エイズ 治療拠点 病院	
1 富田林市	社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会富田林病院		○				○			○								
2 河内長野市	独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター		○		○		○			□								○
3 羽曳野市	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪はびきの医療センター	○			○		○	○	○	○			○		○	○	○	○
4 藤井寺市	市立藤井寺市民病院	○					○											
5 大阪狭山市	学校法人近畿大学近畿大学病院		○	○						□	○	○		○				○
合計		2	3	1	2	0	4	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	3



2021年10月末時点
【対象病院数36の内訳】
公立病院：2
公的病院：3
民間等病院：31

※ 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」、○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す

※ 「周産期母子医療センター」の○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。

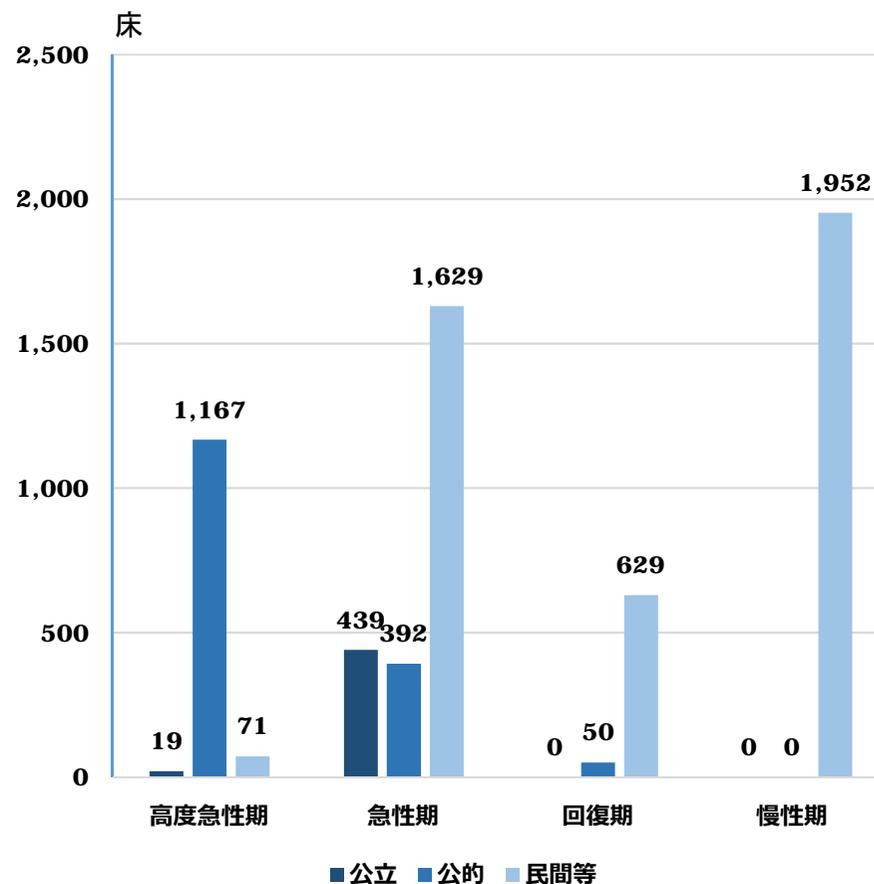
1 南河内二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要②(病床機能別実態)

急性期・回復期・慢性期において、民間病院等が有する病床数が多い

●病院プラン調査等提出

公立・公的・民間等	対象病院数	提出病院数	提出率
公立	2	2	100%
公的	3	3	100%
民間等	31	31	100%
合計	36	36	100%

●病床機能別病床数

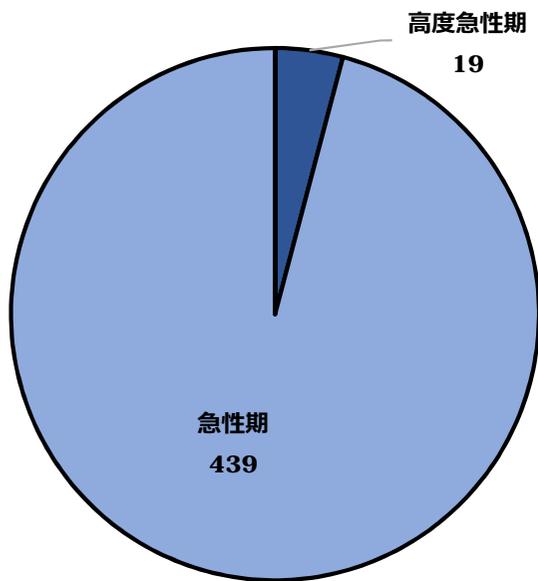


1 南河内二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要③(公民別病床機能)

公立・公的医療機関の病床機能は、ほぼ高度急性期及び急性期である

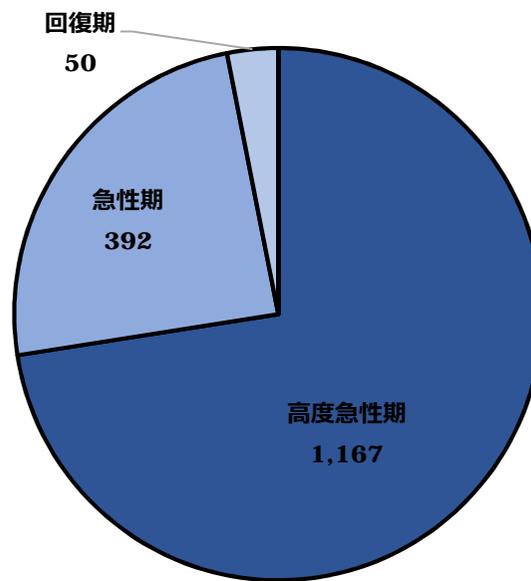
- 公民別病床数の病床機能別割合(病院プラン等提出36病院 (公立2、公的3、民間等31))

<公立> (2)



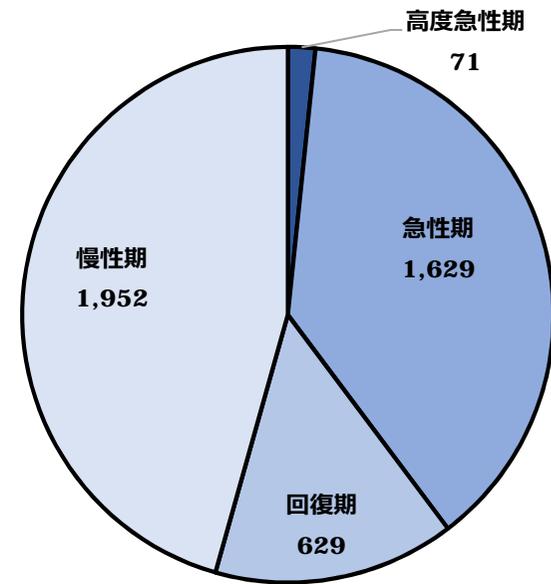
病床数 (合計)
458床

<公的> (3)



病床数 (合計)
1,609床

<民間等> (31)



病床数 (合計)
4,281床

1 南河内二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要④(公民別病床機能)

●【参考】保健所所管内別病床機能別割合

病床機能別病床数【令和3年】(藤井寺保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	19	439	0	0	458
公的	0	0	0	0	0
民間等	26	1,035	250	519	1,830
計	45	1,474	250	519	2,288

病床機能別病床数割合【令和3年】(藤井寺保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	4.1%	95.9%	0.0%	0.0%	100%
公的	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
民間等	1.4%	56.6%	13.7%	28.4%	100%
計	2.0%	64.4%	10.9%	22.7%	100%

病床機能別病床数【令和3年】(富田林保健所所管内)

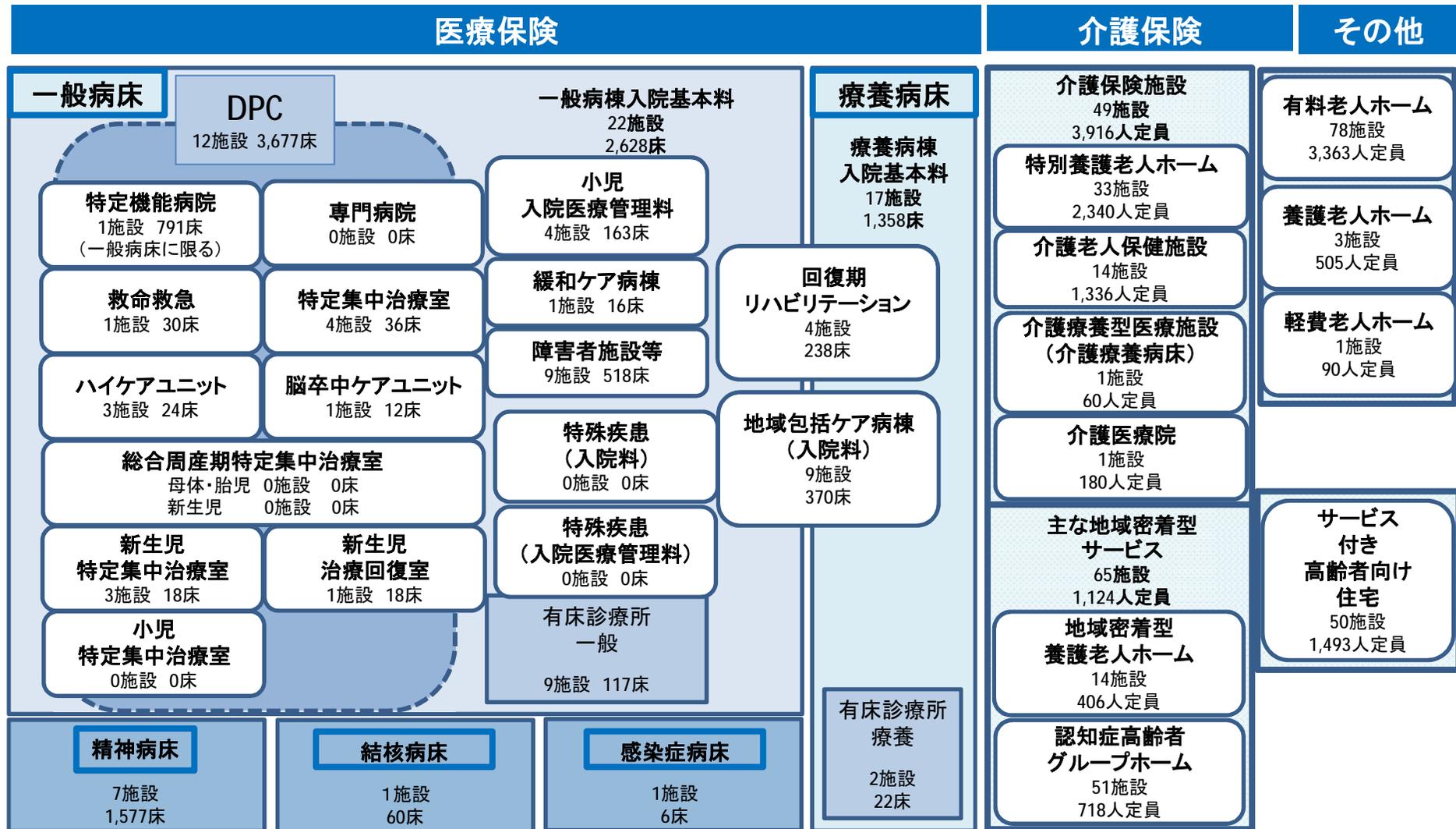
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	0	0	0	0
公的	1,167	392	50	0	1,609
民間等	45	594	379	1,433	2,451
計	1,212	986	429	1,433	4,060

病床機能別病床数割合【令和3年】(富田林保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
公的	72.5%	24.4%	3.1%	0.0%	100%
民間等	1.8%	24.2%	15.5%	58.5%	100%
計	29.9%	24.3%	10.6%	35.3%	100%

1 南河内二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要⑤(医療介護提供体制)

医療・介護提供体制は、様々な機能・施設から構成されている



出典 「医療保険」病床機能報告(2020年7月1日時点)ただし、次項目は右記のとおり、精神病床・結核病床・感染症病床(大阪府健康医療部資料(2021年10月31日時点))

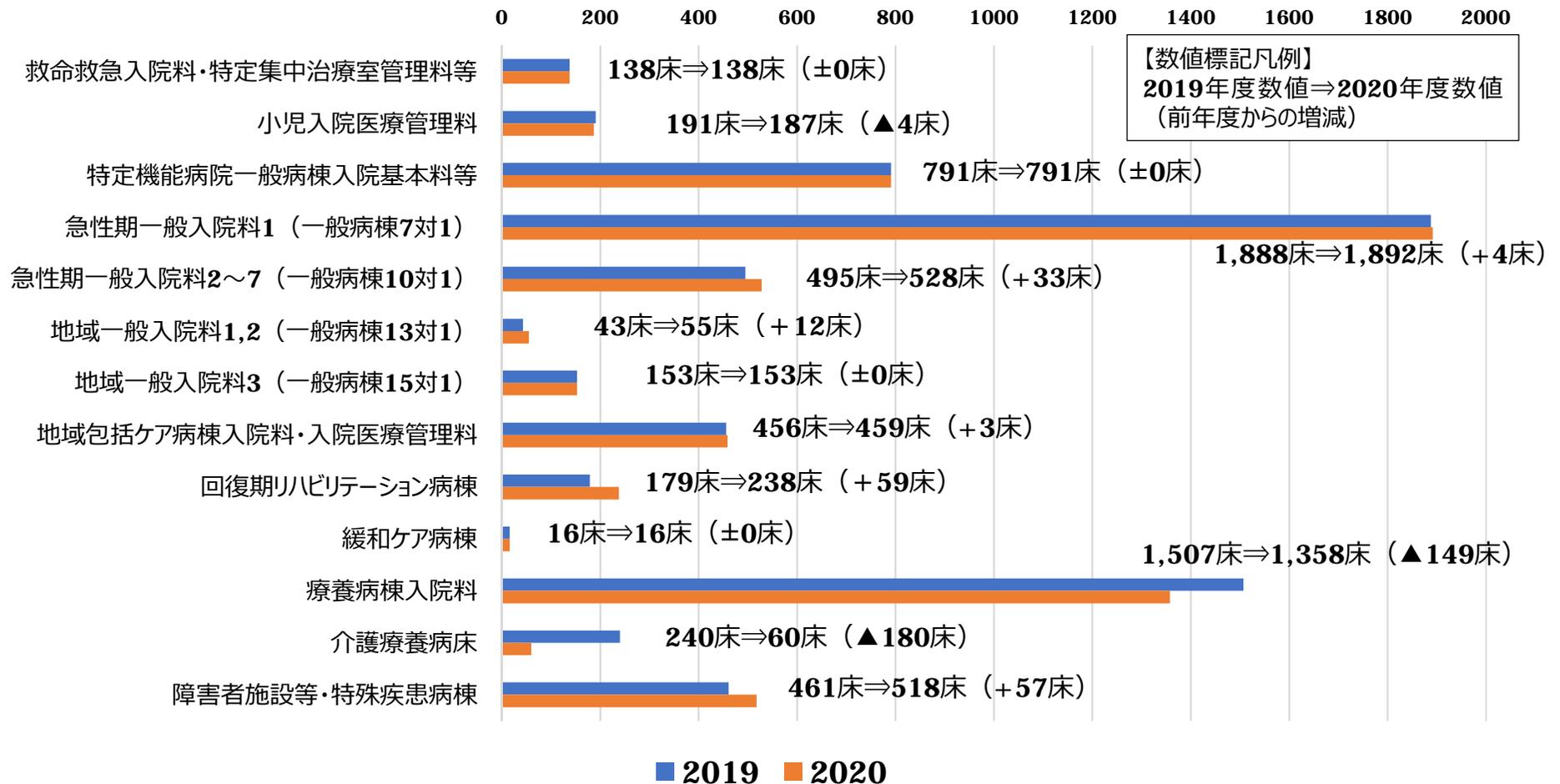
「介護保険・その他」大阪府福祉部資料(認知症高齢者グループホームの施設数は2021年4月1日時点、定員数は2020年3月31日時点、

有料老人ホームは2021年10月1日時点、サービス付き高齢者住宅は2021年4月30日時点、その他施設は2021年4月1日時点)

① 南河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要⑥ (入院料別の経年変化)

回復期リハビリテーション病棟は、 2019年度から2020年度で59床の増加となった

● 入院料別報告病床数の推移



① 南河内二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要⑦(転換補助金)

「病床転換等促進事業補助金」については、
南河内二次医療圏において4病院に対し、交付実績がある

大阪府全体 **病床転換等促進事業補助金（実績）**

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	3	3	3	119	119	119
2016年	5	3	0	103	63	0
2017年	7	5	2	303	125	41
2018年	7	6	0	315	285	0
2019年	8	4	1	256	44	6
2020年	6	5	0	262	154	0
合計	36	26	6	1358	790	166

南河内

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	0	0	0	0	0	0
2016年	0	0	0	0	0	0
2017年	0	0	0	0	0	0
2018年	1	0	0	30	0	0
2019年	2	1	0	58	30	0
2020年	1	1	0	28	28	0
合計	4	2	0	116	58	0

1 南河内二次医療圏の概要 (3) 病床機能分化の状況

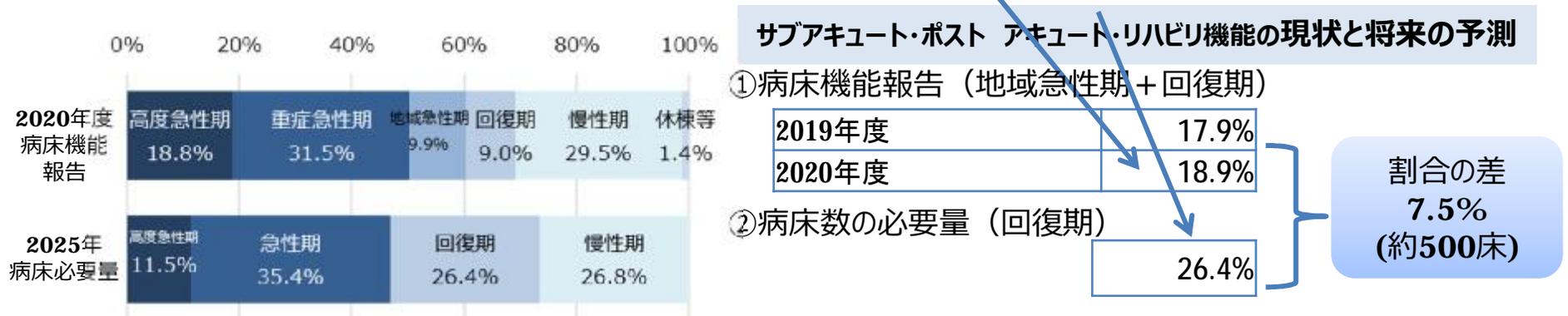
2020年度「回復期」と報告された病床は601床であり、
2016年度と比較すると約120床増加した

● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
				重症急性期	急性期(不明)	地域急性期					
病床数の必要量	2013	741	2,089				1,468	2,154			6,452
病床機能報告	2014	1,061	3,452				192	1,953	1	185	6,844
病床機能報告	2015	1,249	2,896				347	1,895	1	403	6,791
病床機能報告	2016	1,029	3,030				479	2,020	10	107	6,675
病床機能報告	2017	1,267	2,744	1,988	0	756	517	2,160	70	1	6,759
病床機能報告	2018	1,257	2,676	2,172	0	504	559	2,179	0	0	6,671
病床機能報告	2019	1,257	2,685	2,041	0	644	558	2,209	1	0	6,710
病床機能報告	2020	1,257	2,774	2,109	0	665	601	1,977	92	0	6,701
病床数の必要量【既存病床数内】	2025	768	2,372				1,768	1,794			6,701
病床数の必要量【オリジナル】	2025	814	2,515				1,875	1,902			7,106

● 病床機能報告（2020年度）と病床数の必要量（2025年）の割合の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等
				重症急性期	急性期(不明)	地域急性期			
病床機能報告	2019	18.7%		30.4%	0.0%	9.6%	8.3%	32.9%	0.0%
病床機能報告	2020	18.8%		31.5%	0.0%	9.9%	9.0%	29.5%	1.4%
病床数の必要量	2025	11.5%	35.4%				26.4%	26.8%	

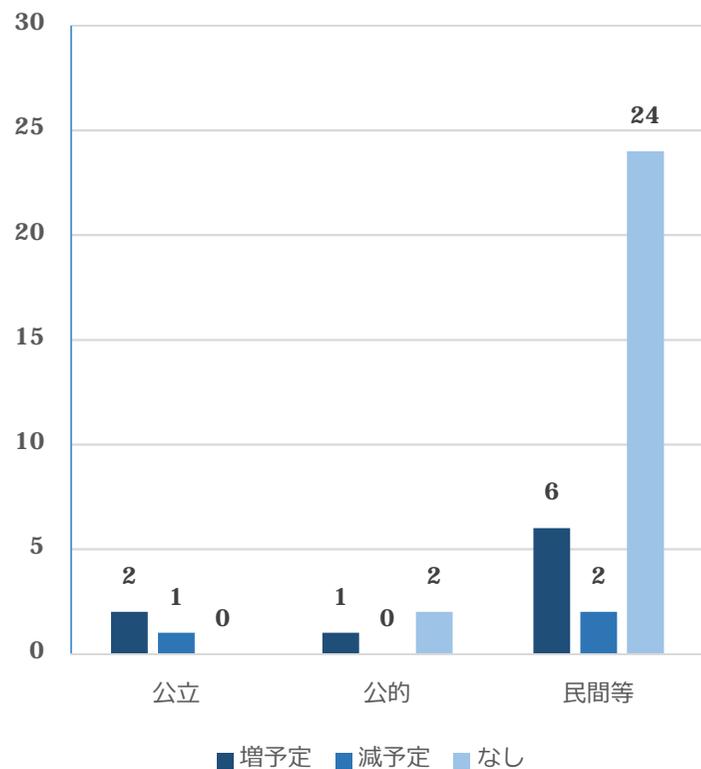


2 将来のあるべき医療体制に向けて

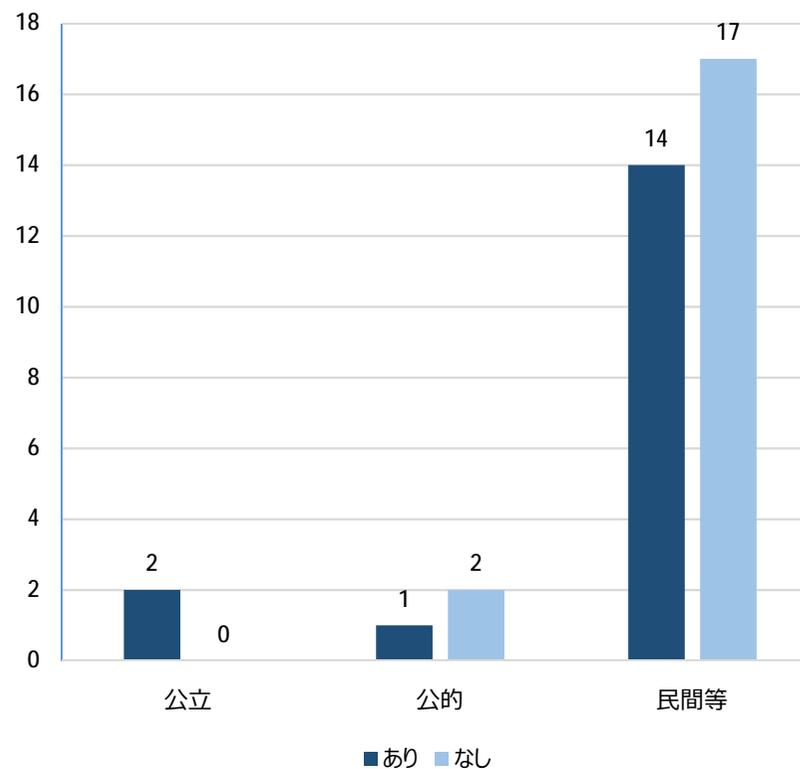
(1) 2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能①

約半分の医療機関が、10年以内の建て替えを検討している

● 2025年に向けた診療科の見直しの予定の有無



● 建て替えの検討の有無



2 将来のあるべき医療体制に向けて

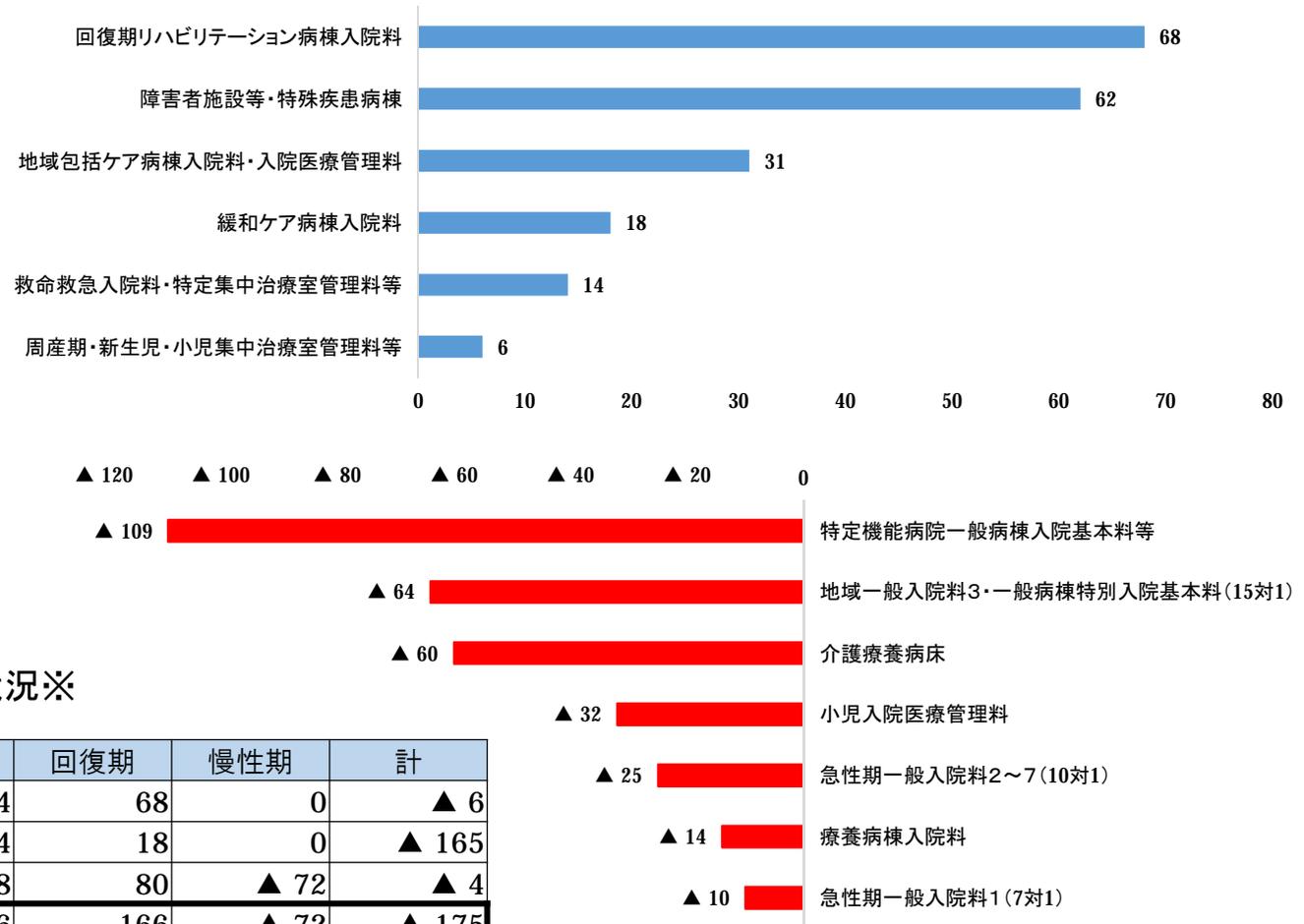
(1) 2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能②

各病院が検討している病床機能等の変更は、
構想がめざす病床機能分化の方向性と概ね一致している

●入院料別の検討状況※

※2025年に向けた検討状況

各病院の2025年に検討している入院料別（病床機能別）病床数総計から各病院の現在の入院料別（病床機能別）病床数の総計を差し引いて算出



●公立・公的・民間別の検討状況※

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	▲ 74	68	0	▲ 6
公的	▲ 129	▲ 54	18	0	▲ 165
民間等	16	▲ 28	80	▲ 72	▲ 4
計	▲ 113	▲ 156	166	▲ 72	▲ 175

2 将来のあるべき医療体制に向けて

(1) 2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能③

●【参考】保健所管内別病床機能の検討状況※

病床機能別増減表（藤井寺保健所管内）

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	▲ 74	68	0	▲ 6
公的	0	0	0	0	0
民間等	10	▲ 22	106	▲ 58	36
計	10	▲ 96	174	▲ 58	30

病床機能別増減表（富田林保健所管内）

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	0	0	0	0
公的	▲ 129	▲ 54	18	0	▲ 165
民間等	6	▲ 6	▲ 26	▲ 14	▲ 40
計	▲ 123	▲ 60	▲ 8	▲ 14	▲ 205

※2025年に向けた検討状況

各病院の2025年に検討している 入院料別（病床機能別）病床数総計から各病院の現在の入院料別（病床機能別）病床数の総計を差し引いて算出

2 将来のあるべき医療体制に向けて

(1) 2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能④

現在、南河内二次医療圏では、1法人が病院の再編を検討している

住所	法人名	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	非稼働	計
松原市	徳洲会	松原徳洲会病院	12	177	0	0	0	189
		松原中央病院	0	60	0	0	0	60
		計	12	237	0	0	0	249



再編統合予定時期	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
未定	【新】松原徳洲会病院	22	227	0	0	249
計		22	227	0	0	249
増減		10	▲ 10	0	0	0

<参考：再編済医療機関>

住所	法人名	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	非稼働	計
藤井寺市	ラポール会	青山病院	0	50	42	0	0	92
河内長野市		青山第二病院	0	0	36	57	0	93
藤井寺市		青山藤ヶ丘病院	0	0	30	30	0	60
		計	0	50	108	87	0	245



再編統合予定時期	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
2021年11月	青山病院	0	40	88	0	128
	青山第二病院	0	0	0	57	57
	青山藤ヶ丘病院	0	0	30	30	60
計		0	40	118	87	245
増減		0	▲ 10	10	0	0

2

将来のあるべき医療体制に向けて

(2) 2025年に各病院が検討している病床機能のまとめ

- 将来に向けて地域包括ケア病棟・回復期リハビリテーション病棟の病床数は増加する傾向が見込まれ、藤井寺保健所管内において、より顕著となっている
- 2025年に向け、富田林保健所管内の病床数が減少予定となっているのは、主として病院の他圏域移転や法人内での再編によるものである
- 当圏域の病床機能等の変更については、本構想がめざす病床機能分化の方向性と概ね一致している